

科博といったらクジラでしょ～！！

地球館1階には、鹿児島県に漂着したマッコウクジラの全身骨格標本があるよ。ここにある標本と比較してみよう。



地球館

館

B2階

23

水に戻った四肢動物



1

クジラの祖先はどのような泳ぎ方をしていたか



天井につる下げられて展示されている2種類の骨格標本を正面から観察してみよう。骨格から見られる体のつくりから、どのように海洋中を泳いでいたと想像できるか。

左の標本

右の標本



なぜ、そのように考えたのか、理由もあわせて書こう。

地球館

館

B2階

25

水の中での収斂適応



2

クジラに見られる後肢の退化



クジラの祖先はどんな動物だったと考えられているか。

5000万年前は、海牛とクジラはまだ陸にいたのですね。海牛（かいぎゅう）とはジュゴンやマナティなどの仲間のことです。



収斂（しゅうれん）進化とは、それぞれ違った分類に属する生物が、生息している地域や時代などが全く違うのにもかかわらず、生態系で同じような地位におかれたとき、同じような外見や生態をもつ進化のことを言います。

外

1 階

出口正面

シロナガスクジラ



3

シロナガスクジラはどれぐらいの大きさ？

シロナガスクジラは口に櫛のような構造があり、丸のみした海水をこしとることで、プランクトンを体の中に取り込んでいるそうです。



出口を出たところに、地球最大の生物であるシロナガスクジラの原寸大の模型があります。その大きさを体感し、どのぐらいなのか予想してみよう。また、この模型はどのような行動を表しているのだろうか。

( ) mぐらい。



出口を出たところにある展示の解説で印象に残ったことをメモしよう。



シロナガスクジラは海洋のプランクトンを食べています。どれぐらいの量を1日で食べているのか考えてみよう。



クジラが絶滅せずに生き残っていくためには、どのような海の環境が必要だろうか。



感じたこと

わかったこと

考えたこと



新たな疑問

もっと知りたくなったこと

年

組

番

氏名